

# 道徳教育の変遷に関する一考察

飛田 大輝 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：特別の教科道徳，道徳教育，考え議論する道徳

## 1. 緒言

平成27年3月に学習指導要領が一部改正され、「第三章 道徳」から「特別の教科 道徳」となった。それに伴い、「教科」の一つとなり、平成30年度から実施することを文部科学省が定めた。「特別の教科 道徳」では、従来の「道徳」とは違い特定の教科書を定め、検定教科書を使用し、評価も行うこととなった。研究の動機は、なぜ近年、子どもの道徳性が注目され始めたのか、道徳教育に求められることは何なのか気になり、研究してみたいと考えた。

研究目的は、これからどのようなことが児童生徒の成長に求められているのか、何を学ばせなければならないのかについて明らかにし、今後の自らの教育活動の糧とすることである。

## 2. 研究方法

文献調査：先行研究や文部科学省の資料を基に道徳教育の変遷の経緯を調査し、さらに「特別の教科 道徳」の内容に至った背景や改善点などを、各種調査結果を基に考察する。

## 3. 結果と考察

調査の結果、「特別の教科 道徳」へと改訂された背景には、従来の「道徳の時間」が軽視されており、読み物資料を読むだけの授業や、分かりきった答えを発言させる授業、他教科の振替の時間などに当てられている実態が浮かび上がった。また、いじめによる悲痛な事件、減少することのない不登校児童生徒数、そして近年の、児童生徒を取り巻く環境の変化、家庭や地域社会の教育力の変化、体験活動の減少、自尊感情の乏しさ、規範意識

の低下など様々な問題があり、道徳教育をより重点的に、より効果的に行う必要があり、今回「特別の教科」化と格上げされたと考えられる。

## 4. まとめ

今回行われた「特別の教科」化では、多様な価値観と誠実に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢は、道徳教育で養うべき基本的資質であるという認識に立ち、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」へと転換をはかる必要がある。

また、学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うこととなっており、道徳科は、

①道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関する指導を補うこと。

②児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること。

③内容項目の相互の関係を捉え直したり発展させたりすること。

に留意して指導する必要がある。

## 引用・参考文献

文部科学省 (2016) 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ(11月30日)、中央教育審議会。

文部科学省 (1958～2016) 学習指導要領、東京書籍株式会社。

国立教育研究政策所 (2016) 平成28年度全国学力・学習状況調査報告書～一人一人の児童生徒の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて～。